

東道と西道

西道通過の拒絶

西道を通過せし大谷伯

と記さんと欲す。右の外、東西兩道の中間に、又一條の道路を通ずと云へるも嶮難無比にして、現今全く通過を絶つと。

西道は近くして嶮、東道は遠けれども、之を西道に比すれば稍々夷なりと。東道は通商路を以て公開し、西道は郵便路と爲せるにも拘らず、外人の爲めに閉鎖するより之を通過せんには、勢ひ印度政府の認諾を要す。前にも述べし如く、予は此の西道を取らんと欲し、在喀什噶爾貿易事務官マカトニ氏（新疆省は露國との通商條約ありと雖も、英領印度とは之れ有らざるなり。然れども印度人、殊にカシミア人は、古來新疆南路と通商貿易しつゝ在りしが故に、無條約中、慣例として相互黙許の姿と爲り居れり。現に印度人の南路に住む者數千人に下らずと。乃ち印度政府は、一の官吏を喀什噶爾に駐在せしむマカトニ氏即ち是なり、氏は漢語、土語に通じ清官の氣受け宜しく殆んど露國を領事と對等の待遇に依頼せしに、同氏は直に印度總督に打電し、問合せしか、沿道保護し能はざると、隣國（露國？）の關係上、許可し難しとの理由の下に、其の通過を拒絶せられたるが故に已むを得ず東道に依ることゝしたり。

## 二、西道の景況

我國人にして西道を通過せし人あり。是を京都西本願寺の大谷光瑞伯と爲す。今同伯及印度商人の該路を通過せしものに就て聞き得たる大略の景況を掲げ、東